



2017年 第8号  
発行日：2017年10月13日

# 事務局ニュース

岐阜県ユニセフ協会  
☎：058-379-1781  
FAX：058-379-1782  
e-mail：[gifuken@unicef-gfu.jp](mailto:gifuken@unicef-gfu.jp)

ユニセフボランティアのみなさま いよいよ秋本番！ 街頭募金の季節となりました。

お忙しい毎日と思いますが、あなたの時間を子どもたちのために割いてくださいますように！



© UNICEF/UN0119955/Brown

安全を求めてバングラディッシュに逃れてきたロヒンギャ難民。国境を越えた後、安全な避難場所を求めて、洪水地域や水田を歩いている。(2017年9月7日撮影)

unicef | for every child

岐阜県ユニセフ協会はロヒンギャ難民緊急募金を取組んでいます。各地のJAまつりの際の募金活動は、バングラディッシュへ逃れてきた難民のための支援を訴えます。

ミャンマーのラカイン州からバングラディッシュに逃れてきた難民は50万人以上、そのうちの6割を占める30万人以上の子どもが危機にさらされています。みなさまからの募金は、急性下痢症やコレラ発生を防ぐ支援計画に使われます。10月には、大規模なコレラ予防接種が始まりました。ひとりでも多くの子どもの命が助かるよう願ってやみません。

## 第39回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金

### スローガン：『子どもたちに生きるチャンスを』

(幼い子どもたちの命と未来を守る支援を訴えてまいります。)

世界の5歳未満児死亡率は1990年から半分に減少しましたが、その一方で、およそ約5秒にひとりの子どもたちが 予防可能な原因で5歳の誕生日を迎える前に命を落としています。先進国に生まれていれば防げたはずの感染症や下痢、栄養不良などで犠牲となる子どもの多くは、途上国の貧しい地域や紛争地帯、医療施設のない辺境の村々など、劣悪な環境で必死に生きる子どもたちです。世界のどこに生まれても尊い命。その一人ひとりに名前があり、家族があり、未来があります。ユニセフは、世界中のすべての子どもが生まれた国や境遇に関係なく等しく守られるように、母子をケアする検診や栄養補給、母乳育児の推進や保健員の養成、予防接種の普及に全力で取り組んでいます。



© UNICEF/UNI178392/Pirozzi  
「栄養状態を知るため、上腕の測定を受けるエリトリアの1歳の男の子。」

★11月11日(土)「ユニセフ子どもの広場」会場で 募金活動を行います ♪♪♪